

全国の火山活動状況（1988年1月～6月）

気象庁地震火山部
地震火山業務課火山室

気象庁が常時観測を実施している17火山とその他の火山について、1988年1月から6月までの活動状況を、この期間に得られた情報をもとに要約した。

全国火山活動状況を第1表に、火山情報発表状況を第2表に示す。

第1表 全国火山活動状況（1988年1～6月）

Volcano \ Month	1	2	3	4	5	6
Sakurajima	▲	▲	▲	▲	▲	▲
Izu-Oshima	▲	●	●	●	●	●
Asosan					●	
Meakandake	▲	▲	●	●	●	
Tarumaesan		●				
Niigata-Yakeyama	●	●	●	●	●	●
Suwanosejima	▲	▲	▲	▲		
Satsuma-Iwojima	●					
Bayonnaise-Rocks			●			
Fukutoku-Oka-no-Ba	●	●	●	●	●	●

▲Eruption ●Anomaly

第2表 火山情報発表状況（1988年1～6月）

火山名 \ 情報	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	有珠山	北海道駒ヶ岳	吾妻山	安達太良山	磐梯山	那須岳	草津白根山	三宅島	雲仙岳	霧島山
定期	6	6	6	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
臨時	7	1		5	8		1							1			

このほか、薩摩硫黄島についての臨時火山情報を1月に発表した。

桜島（鹿児島地方気象台）

月別の活動の推移は第3表のとおりである。

第3表 桜島火山観測資料

月	1988/1	2	3	4	5	6
噴火回数	31(29)	43(35)	34(21)	22(19)	22(12)	19(6)
地震回数	2915	4912	3726	4766	1389	2148
微動継続時間合計(h)	5.5	11.6	19.8	6.8	25.7	91.3

()内：爆発回数 地震回数：B点（地震+微動）

噴火活動は引き続き活発な状況であった。おもな爆発と被害は次のとおり。

月日時分	状	況	被	害
1 30 22 06	爆発音・体感空振ともに大きく、800メートルの火柱と火山雷を伴い、多量の噴石を4合目まで飛散させた。		空振のため、火口南側山麓の古里町のホテル等でガラスが割れた。	
2 3 12 52	爆発音・体感空振ともに大きく、2500メートルの高さまで多量の噴煙を上げた。		南東側山麓に多量の火山れきが降り、太陽熱温水器等が破損した。また、古里町等で空振によりガラスが割れた。	
2 9 18 52	400メートルの火柱を伴った。		有村展望台と桜島口間に直径約5ミリの火山れきが降り、車のフロントガラスが割れた。	
2 10 12 18	やや多量の噴煙を2000メートルの高さまで上げ、中量の噴石を4合目まで飛散させた。		有村付近で火山れきのため車のフロントガラスが割れた。	
3 27 12 52	爆発音・体感空振ともに大きく、多量の噴煙を4000メートル以上の高さまで上げた。		鹿児島市高免町付近で火山れきのため車のガラスが割れた。また、空振のため古里町でホテルの窓ガラスが割れた。	

6月15日より25日まで断続的に活発な噴煙活動が続き、折りからの東よりの風に流されて鹿児島市方面に多量の火山灰が降った。気象台における降灰量は例年より多く、記録的な月降灰量と日降灰量となった。

6月の降灰量 : 3541g/m² 観測史上1位（いままでは、昭和59年の2423g/m²）

日降灰量（16日）：2671g/m² 観測史上1位（いままでは、昭和60年7月29日の2476g/m²）

この降灰のため、鹿児島市内でスリップ事故が発生し4人が負傷したほか、路面電車が脱線する事故があった。

伊豆大島（大島測候所）

1988年1月から6月までのC点における地震回数は次のとおり。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
32	116	149	85	208	131

1987年11月16日の噴火以降、三原山山頂付近のA点の地震計に記録された見かけ全振幅4mm以上の地震回数は、1月に入っても1日当り10回程度以下となっていたが、1月6日ころより火山性微動の振幅が増大し、1月25日と27日に山頂で噴火があった。

3月3日から4日にかけてカルデラ内が震源とみられる火山性地震が一時的に増大し、2月28日から3月5日にかけては振幅の大きい間欠的な微動が記録された。その後も火山性地震や微動振幅の増減を繰り返した。

三原山山頂からの噴煙活動は活発で、3月10日には1800mを観測した。6月30日には島の南西部で初めて火山ガスによる被害を生じた。

伊豆大島火山活動経過

1988年

- 1月 6日、9日微動大きくなる。25日、27日小噴火。
- 2月 伊豆半島東方沖地震。18日頃微動増大。
- 3月 2月28日から微動大。3月2～5日微動の中に震動が多発。
- 4月 8日山頂地震多発。9日微動増大。
- 5月 3～4日微動増大。6～8日山頂地震多発。20～21日微動増大。
- 6月 6月中旬から山頂地震増加。17～19日微動増大（本年最大）。30日火山ガスによる花の被害。

浅間山（軽井沢測候所）

月別の活動の推移は第4表のとおりである。

第4表 浅間山観測資料

観測点		月					
		1988/1	2	3	4	5	6
A	火山性地震	25	12	157	77	103	2
	火山性微動	0	0	0	0	0	0
B	火山性地震	319	147	471	402	388	29
	火山性微動	0	0	0	7	3	0
C	火山性地震	209	82	371	275	245	13
	火山性微動	0	0	0	0	0	0
D	火山性地震	31	18	158	74	100	2
	火山性微動	0	0	0	0	0	0
E	火山性地震	65	39	329	256	245	13
	火山性微動	0	0	0	0	0	0

地震活動は、3月中旬から下旬にかけ急増した時期があったものの、比較的静かな状態が続いた。6月は極めて静かな状態で経過した。

遠望観測により観測された噴煙の色はすべて白色、噴煙量は4月17日と6月15日に4（やや多量）を観測したほかは、3（中量）、またはそれ以下で、噴煙高度の最高は4月9日と6月15日の1200メートルであった。

浅間山周辺の湧水の水温とpHの測定結果には、異常は認められなかった。

阿蘇山（阿蘇山測候所）

月別の火山性地震の推移は第5表のとおりである。

第5表 阿蘇火山観測資料

月	1988/1	2	3	4	5	6
地震回数	11	14	43	21	11	10
孤立型微動回数 0.5 μ 以上	64	29	248	255	5884	1566
連続微動平均振幅(μ)	0.1	0.1	0.1	0.2	1.3	1.3

訂正：孤立型微動回数を次のように訂正する。

昭和62年7月 30回を31回に

5月9日から28日まで、連日200回を越える孤立型微動が発生した。

中岳第1火口の湯だまりは4月頃より湯量が減少し、次第に火口底の露出部分が広がった。5月下旬から中旬にかけては噴気孔が多数観測され、青白色ガスを含む白煙を勢いよく噴出し、噴気音もやや強くな

った。土砂噴出は高い時で10メートルのものが6月に観測された。

赤外放射温度計による湯だまりの表面温度の観測結果は次のとおりである。

月	1988/1	2	3	4	5	6
温度	56	56	62	65	74	62

雌阿寒岳（釧路地方気象台，定期火山情報：5月23日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	38	7	14	20	10	4

1月4日17時ころから火山性微動が発生し，5日夕方から6日朝にかけて22年ぶりに噴火をした。噴火は8日にも確認されたほか，2月7日から8日にかけてと，2月18日から19日にもあった。

これらに関する臨時火山情報を1月5日，6日，7日，7日，8日，20日，2月1日，8日に発表した。釧路からの遠望観測によると，噴煙量は昨年夏以降次第に多くなり，本年1月の噴火後は噴煙の高さが最高800メートルに達したこともあった。

現地観測を5月19日～21日に実施した。結果は次のとおり。

(1) ポンマチネシリ（本峰）

第1火口は，火口の南壁の噴気口が火口底側に拡大しており，大きさは直径約15メートルあった。噴気活動は活発で時折高温の強い噴気が認められた。噴気口付近の噴気温度は95℃であった。第4火口は火口底が昨年よりやや深くなっており，噴煙量も多く，活発な噴気活動が続いている。

(2) ナカマチネシリ第3火口

噴煙量はやや多く，活発な活動が続いている。

(3) 渋川温泉（フレベツボッケ）及び白水温泉

フレベツ岳山麓の渋川温泉及び雌阿寒岳東側山麓にある白水温泉では，噴気活動等に大きな変化はなかった。

十勝岳（旭川地方気象台，定期火山情報：6月24日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	15	14	12	13	20	17

この期間，火山観測所からの遠望観測では，昨年11月以降，振子沢の噴気量がやや増えているが，他の火口については大きな変化はなかった。

現地観測を6月22～23日に実施した。結果は次のとおり。

(1) 62-1，62-2火口とも活発な噴気活動を続けている。62-1火口の地中温度は355℃と高い状態が続いている。

- (2) 旧火口（安政火口）では、大小多数の噴気孔がありやや活発な活動を続けている。
- (3) 振子沢では、やや活発な噴気活動を続けている。

樽前山（苫小牧測候所，定期火山情報：5月26日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	30	124	10	2	2	2

この期間、苫小牧市内からの遠望観測による噴煙の状況はとくに変化はなかった。

現地観測を5月23日～24日に実施した。結果は次のとおり。

A火口やドームの南西噴気孔群では、活発な噴気活動が続いているが、各噴気孔の噴気温度及びドーム周辺の地中温度にはとくに大きな変化はなかった。

有珠山（室蘭地方気象台，定期火山情報：5月25日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	7	7	7	10	16	11

この期間、室蘭地方気象台からの遠望観測では、有珠山、昭和新山とも噴煙の状況に大きな変化はなかった。

現地観測を5月23日～24日に実施した。結果は次のとおり。

(1) 有珠山

火口原内の銀沼火口，I火口および小有珠南東斜面などを中心に活発な噴気活動が続いており，噴気には有毒なガスが含まれている。I火口とその周辺では高温の噴気孔が多数あり，噴気温度が500度を越える場所がある。

(2) 昭和新山，四十三山

とくに変化はなかった。

北海道駒ヶ岳（森測候所，定期火山情報：5月27日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	1	2	22	6	2	2

この期間、森測候所からの遠望観測では、噴煙，その他、とくに変わった現象はなかった。

現地観測を5月24日～25日に実施した。結果は次のとおり。

(1) 大正火口付近の噴気地帯では、最高温度が97℃と全般的に高温の状態となっている。

(2) 昭和火口，安政火口，および亀裂の所々では弱い噴気活動を続けている。

(3) 山麓温泉の状況は、とくに変化がなかった。

吾妻山（福島地方気象台、定期火山情報：6月22日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	8	9	6	4	8	4

この期間、福島地方気象台からの遠望観測では、噴煙の出ている日は少なく、噴煙量も少量だった。
現地観測を6月10日と14日に実施したが、各観測地点とも異常は認められなかった。

安達太良山（福島地方気象台、定期火山情報：5月24日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	2	6	1	0	0	4

現地観測を5月17日～19日に実施した。結果は次のとおり。

沼の平西側登山道付近の噴気地帯では、地熱の高い状態や噴気活動が続いており、その西側と南側で新たに弱い噴気が見られた。また、鉄山南斜面登山道付近の噴気地帯では、引続き亜硫酸ガスが検出された。

磐梯山（若松測候所、定期火山情報：6月16日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	8	8	4	23	18	39

現地観測を6月6日～7日に実施した。結果は次のとおり。

62年10月の観測結果と比較し、各観測点とも異常は認められなかった。

那須岳（宇都宮地方気象台、定期火山情報：5月31日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	15	23	20	16	18	16

この期間、火山観測所からの遠望観測では、噴煙量は少量で、特別な変化は認められなかった。

現地観測を5月25日～26日に実施した。結果は次のとおり。

各地点とも、とくに異常は認められなかった。

草津白根山（前橋地方気象台，定期火山情報：6月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	27	0	12	12	7	8

この期間，火山遠望隔測装置による遠望観測では，表面現象に異常は認められなかった。

現地観測を5月30日～31日に実施した。結果は次のとおり。

表面現象，噴気のガス濃度等に大きな異常は認められなかった。

三宅島（三宅島測候所，定期火山情報：2月20日，6月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	8	3	9	4	7	10

現地観測を2月18日～19日および6月8日～9日に実施した。結果は次のとおり。

雄山の噴気地帯の噴気温度，地中温度に異常は認められなかった。

雲仙岳（雲仙岳測候所，定期火山情報：4月11日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	34	41	31	33	128	53

現地観測を4月8日に，雲仙地獄，小浜温泉で実施したが，とくに変化は認められなかった。

霧島山（鹿児島地方気象台，定期火山情報：5月18日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1988/1	2	3	4	5	6
回数	14	12	12	27	12	25

現地観測を4月25～26日に高千穂御鉢，新燃岳の両火口で，また，5月12日に山麓周辺で実施した。

えびの高原，御鉢，火口湖などの3～4カ所の測点で噴気温度などに多少の増減はあったものの，とくに異常は認められなかった。